

まちづくり ニュース



ホームページ

<http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Icho/3732/>

97号

2008年4月11日



ときわ台の景観を守る会

ときわ台まちづくり委員会

代表 鈴木博之 近藤洋子

事務局 島田晴子 tel・fax 3960 - 3869

協力金振込先 郵便局00110-3-739728 ときわ台の景観を守る会

○ 藤和マンション 裁決はまだ

今回、板橋区の建築審査会の裁決をお知らせできる予定だったが延期となった。2月26日に行われた口頭審査は、板橋区が道路ができてもない状態で建築許可をおろしたことへの審査請求に対するもの。本来の藤和の審査請求に対する口頭審査は

5月19日(月) 2時から

於 板橋区役所11階会議室

で行われることになった。私たちの訴えと、区や藤和の弁明をぜひ聞きに来ていただきたい。裁決は6月ではないかと思われる。

大規模の建築では、車のすれ違いに必要な幅6mの道路に10m以上接していることが、東京都の安全条例により必要条件となっているが、藤和のマンションは、そもそも周りに6mの道路がないのだから大規模な建物は建てられない。道路を拡幅するというが、人の出入り口迄の10mだけ6mに拡幅するだけで、肝心の自動車の出入り口の付近は4mのままである。安全条例の趣旨に反しているし、高さも住民の意向を無視したものである。

○ やっと採択 —都市建設委員会— まちづくり活動に予算ちょっと

4月10日の都市建設委員会で、私達の陳情の第3項がやっと採決された。2003年に提出した陳情を継続し、2007年に再提出している内容は以下のようなもの。

第1項 常盤台(特に駅前)の景観と破壊の防止に有効な、なんらかの手立てを至急講じてください。

第2項 常盤台駅前に絶対高さ制限条例を制定してください

第3項、常盤台住民のまちづくり運動に予算を付けて援助してください。

雀の涙の30万円は主として、契約後も献身的にしゃれ街協議会の協議員として活動して下さっているアドヴァイザー清水さんの報酬やしゃれ街ニュース費に当てられる予定。

第1項と2項は相も変らぬ継続。他の区に比して歴然とした後進性を感じさせる。

隣の上板橋再開発は6割の賛成以上進展しない。区の諦めが悪いとしか言いようがない。

○ 「日本交通」跡地の 巨大マンションの影響

前野町の元日本交通跡地に、十八階建ての巨大マンションが建設されつつある。現在十階ぐらいまでの高さだが、既に脅威を感じさせている。

よその町のことと言っては居られない。なぜなら完成した時、その居住者は、殆どがときわ台駅を利用すると思われるからである。

皆、徒歩で来るだろうか。半分ぐらいは自転車を使うのではないだろうか。そうなれば駅前ロータリーも道路も不法駐輪でパンクするだろう。裏面で述べているように、常盤台の住宅地を散歩するペットも増えるし、道すがらタバコやゴミを捨てる輩も増えるだろう。

長谷工などの建主や新住民に、そのあたりの協力を得るために、話し合いを申し入れる必要があるように思う。

上野・谷中あたりではメグリンという愛称の小型バスが巡回していて、大変好評のようだ。前野町に続々と建つマンションの住民や、ちょっと足腰の痛む方が利用できる、小型で100円ぐらいで乗れる循環バスを考えてはどうだろうか。

犬のお散歩

犬のフンガイについては、「まちづくりニュース」でも厳しいご意見を載せたりしましたが、その後改善されたでしょうか。

並木道沿いの家の方に聞くと、殆ど変わっていないということでした。

雨がやんだあとなど、一斉にワンちゃんのお散歩が始まり、フンガイにフンガイしている人たちには耐え切れない匂いが漂うのです。

愛犬家の皆さんには耳が痛いかもしれませんが、並木道を散歩すると、確かに風に乗って匂います。大抵の人がワンちゃんのお散歩グッズを持っているのですが、人の見えないところや、夜間では、相変わらず置きっぱなしにする人がいるそうです。

さらに、小の方も匂うのです。何十匹もが排泄すればもつともなことです。特に大型犬の場合は、一匹がかなりの量を撒き散らすことになります。

最近のペットの飼い方指導では、大も小も排泄を済ませてから散歩に連れていくようになってきているそうです。排泄させるための散歩は、こんなにペットの数が増え、苦情があるのですから、住宅街では、確かに工夫が必要だと思えます。

もつともこの国では、つい何年か前まで、人間のオスが堂々と人前で立小便をしていましたから、犬のオシッコ位でなんだと言われそうです。

フットパスと二項道路の問題

常盤台にはフットパスという分譲当時から細い道がある。商店街と住宅街の間にあるサーブス道路とクルドサックの抜け道になっていて道路で、車の通れない人間のためだけの道である。小さな車回しのクルドサック同様、常盤台の大事な特徴になっている。

それが一部分、二項道路と言って、建て替え時に道路中心線から2mずつ後退して、将来的には4m道路になるような道に指定されている。このままでは常盤台らしい都市計画的な工夫のひとつが消えてしまうのではないかと危惧されている。

龍谷大学牛尾ゼミ来訪

三月九日（日）中央図書館視聴覚室で、京都の龍谷大学牛尾洋也教授とゼミの学生八人が、研修勉強会を行いました。常盤台住民と、景観紛争・藤和問題・景観ガイドラインなどについて意見交換をし、牛尾教授からは外国の事例や京都の里山の問題についての興味深いお話がありました。

学生達は二年生。真摯な態度で、よく常盤台や国立の問題を調べていました。この人達が裁判官だったら、としみじみ思います。

午前中は地図を見ながら、常盤台の町歩きをしてもらいました。一番嬉しい感想は、「常盤台にはゴミが落ちていない！」というもの。私たちは、いつものままの街を見てもらったのですが、最近、日常的に皆さんのお陰で街はきれいです。学生達も、道を掃いている方を見かけて、「こんな風にいつもきれいにしているのだ」と感心したとのこと。逆に、駅近くではポイ捨てが目立ったそうです。

全体的な印象は「低層の住宅地なので、どの家も日当たりがよく、住みやすそうな街だ」と思った。他には、思ったより生垣が少ない、常盤台は付近の町のインフラになっている、低層で落ち着きがある、などでした。

お昼は、常盤台の味「キッチンときわ」のオムライスに大満足してもらいました。

定例会

五月十日（土）七時

一・二丁目町会事務所

第4回協力金の報告

先日の当会に対する協力金のお願いに対し、

106件1,022,820円のお振込みを頂きました。いつもながら皆様のご協力に感謝申し上げます。マンション問題対策費・ニュース印刷費・シンポジウム開催など、様々な活動に大事に使います。

詳しい収支報告は、ご協力いただいた方へ、近日中に、封書で差し上げる予定です。手違いがありましたらお知らせ下さい。